

平成 21 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会 会議録

開催日時

平成 21 年 11 月 18 日（水） 午後 3 時～午後 5 時

開催場所

広島市役所本庁舎 14 階第 7 会議室

出席者

1 委員 20 名中 15 名出席

東川会長、小野副会長 天野委員、阪田委員、崎田委員、田川委員、津麦委員、鍋島委員、
西野委員、萩原委員、播野委員、本川委員、満田委員、本谷委員、山本委員
（欠席：越崎委員、亀田委員、曽根委員、中本委員、山野井委員）

2 オブザーバー 3 名全員欠席

（欠席：新出オブザーバー、中野オブザーバー、富中オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課文化・スポーツ教育担当課長

会議次第

1 開会

2 市民局長あいさつ

3 議事

- (1) 計画の構成について
- (2) 計画策定の基本的な考え方について
- (3) 計画策定の背景について
- (4) 計画の基本理念等について
- (5) 推進施策について

4 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

なし

会議資料

平成 21 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会 次第

広島市スポーツ振興審議会委員等名簿

平成 21 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会における主要審議事項について

議事の(1)関係

広島市スポーツ振興計画（仮称）の構成（案）

議事の(2)関係

計画策定の基本的な考え方（案）

議事の(3)関係

計画策定の背景

議事の(4)関係

基本理念とその実現に向けて

議事の(5)関係

ア 計画の施策体系（案）

イ 施策推進の方向性について

議事の(2)・(4)・(5)関係

第 4 回スポーツ振興計画検討部会(平成 21 年 10 月 21 日開催)での意見とその対応方針(案)

【参考資料】

(1) 国、広島県、政令指定都市、東京都のスポーツ振興計画の構成

(2) 国、広島県、政令指定都市、東京都のスポーツ振興計画の施策体系

会議の要旨

1 開会

<平成 21 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会における主要審議事項について>

（事務局より説明）

2 議事（「 発言の要旨」参照）

(1) 計画の構成について

（説明内容について意見等なし）

(2) 計画策定の基本的な考え方について

（説明内容について意見等なし）

(3) 計画策定の背景について

（説明内容について意見交換）

(4) 計画の基本理念等について

（説明内容について意見交換）

(5) 推進施策について

（説明内容について意見交換）

3 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：計画の構成について】

〔東川会長〕

この構成（案）については、これまで各政令指定都市で出されている振興計画の構成、計画の柱立て、進め方などを参考にして今回の広島市スポーツ振興計画の構成（案）を部会で作成したものである。

部会の中では、オーソドックス過ぎるのではないかという意見もあったがこうした形であればすべて網羅できると思う。

特に意見がないようなので、計画の構成については原案のとおり進めていきたいと思う。

【議事の(2)：計画策定の基本的な考え方について】

〔東川会長〕

計画期間は、部会の中でいくつか意見があった。例えば前期、中期、後期の三期に分ける考え方もできないかという意見もあったが、部会で検討した結果、前期、後期の二期に分ける方がより展開しやすいということで前期と後期にしたものである。

特に意見がないようなので、計画策定の基本的な考え方については、原案どおりの内容と期間で進めていきたいと思う。

【議事の(3)：計画策定の背景について】

〔東川会長〕

先ほどの基本的な考え方を踏まえて、広島市を含めてどのような状況におかれているのかをしっかりと見据えた上でどのようにするのかという計画の元になる内容である。

〔本川委員〕

４ページのアの「スポーツクラブの整備」の中で、「学区体育協会のクラブに加入している人の割合は全市人口の２．７％に過ぎません」とあるが数字が低いように思う。市民意識調査との数字とも違うがこの数字はどのようにして出された数字なのか。

〔東川会長〕

これは、学区体育協会に加入して活動しているクラブ員の人数を人口で割って出された数字である。

〔津麦委員〕

３ページに「どの世代においても・・・持続可能な地域社会の実現が求められてきています」という文章があるが意味がよく分からない。「どの世代からも求められている」ではないか。「どの世代においても」とするのであれば、「実現を求めています」の方がよいのではないか。

〔東川会長〕

主語、熟語の問題になるかもしれないが、例えば高齢者なら高齢者、若い方であれば若い方ということではなくて、どの世代においてもバランスのとれた地域社会の実現が求められているという意味である。

〔市民局長〕

今の環境・経済・社会情勢の動きを見ると、持続可能な社会が求められているということを噛み砕いて「どの世代も」と記述されているものと理解している。

〔鍋島委員〕

広島市のスポーツの現状で「地域におけるスポーツ・レクリエーション活動について」を説明してもらった。

他の政令都市の計画と比べても、広島市の施策の体系を見ても、広島市のスポーツの現状が衰退しているとか変化をしているとかが分かるタイトルになっていれば全国と比べても広島市の現状が分かりやすくなるのではないか。

〔東川会長〕

今の件については宿題ということにしたい。

広島市のスポーツの現状については、次につながっていくようなタイトルの付け方というところとも関係があると思う。皆さんがイメージしやすいようなタイトルにするような工夫が必要だと思う。計画策定の背景についてはさらに精査をしていきたい。

【議事の(4)：計画の基本理念等について】

〔東川会長〕

部会でも2度検討しており、イメージとしては共有できている部分もある。具体的な文言や概念図として説明していくと全てが反映できないというもどかしさもある。

部会の方では、審議会でも意見をいただき、皆さんに理解していただきやすいようなものが作れないかということで終わっている。

目標については、今後の課題ということで検討に至っていない。したがって本日皆さんに検討をいただきたいのは、一つは基本理念、もう一つは基本方針、柱立てである。また、概念図ももっと工夫して、もう少しイメージできるものにしたいと思っている。

〔鍋島委員〕

先日の部会でもなかなか結論が出ずに、本日皆さんから意見を伺うということになっているが、やはりオリンピックが気になる。オリンピック憲章に平和の推進ということがはっきり書いてあるので市民にも分かりやすい。その面では、基本理念の中で「本計画は」という部分から理念的なものになっているが、「生きがいを感じることができる明るく活気あふれる」だけでは物足りない感じなので、「明るく活気あふれるまちづくりに取り組む」の部分で「明るく活気あふれる平和なまちづくり」にし、「平和」を入れたらどうか。広島らしい「平和」とか「スポーツ王国広島」という言葉を入れた方が広島のカラーが出ると思う。

〔東川会長〕

施策の中でも「スポーツと平和」という具体的なものは出ているが、基本理念に入っていないのは確かである。

部会の中でも「スポーツと平和」もそうであるが、何か広島らしさというものが入らないだろうかという宿題をいただいていたので、その方向につながるような意見をいただいた。いろいろ考えられると思うが、例えば現在基本方針の4本柱が立っており、これを別な角度

からまとめ方を変えることもできると思う。その中身をどのようにしていくのかという部分が大切であると思う。

〔本谷委員〕

概念図のところは、表現力の問題になるので、全体的な理念や方針はこれでいいと思う。

〔田川委員〕

概念図も含めて言うと、「新しいスポーツ王国広島」の「新しい」という部分はどこが新しいのかと聞かれた時に、どう我々は応えられるのかということが一番のポイントであると思う。「ここが新しい」ということが言えるかどうかである。あとの基本的な方針や柱はこれでいいと思う。新しさをどう打ち出すかということである。

〔東川会長〕

いろいろな施策を取りまとめるのが基本方針の4本柱になるわけであるが、この中に新しさというイメージにつながるものを柱立てしていくという考え方もあるし、その元になる基本理念の中に説明を追加して「新しいスポーツ王国広島」というものを丁寧を示していく方法もあると思う。

〔鍋島委員〕

田川委員の意見に関連するが、「新しいスポーツ王国広島」というものは、先ほどの理念の中でも書いているが、「それぞれが連携し一体となった」ということであると思う。

今まではバラバラにしていたものが、「一体となった」というところが「新しいスポーツ王国広島」の柱になると思う。概念図の中に、どう連携したかというものを出していかないと「新しい」ということにならないような気がする。四つの柱を引っ付けただけでは何を連携しようとしているのかが分からないので、連携の具体的なものが必要である。

例えば、指導者の交流とか、連携したイベントを打っていくとか、国際大会を連携して誘致するとか、広島らしい何か新しい仕組みを作るとか、他都市にないプロスポーツ等をキーワードにしながら連携軸を作っていくなどが考えられると思う。

そういったものが何かあるとは思いますが、これでは「連携する」ということだけで、何をどう連携するのか分かりにくい。このことは、概念図で表す方がいいのか、それとも基本方針の前段で連携の何かがあって基本方針はこうしていくというものにするのか、さらには基本方針の後にどう連携させるのかということがあって具体的な目標につなげていくという形になるのか。このようなことが「新しいスポーツ王国」につながるのではないかと思う。

〔東川会長〕

このことは、重点施策をどう定めていくのかということとも関連してくる。部会の中では、鍋島委員が言ったように束ねて、そういうものをいくつか重点施策として挙げていけないだろうかという意見もあった。そういうものを基本方針でどうしていくのかという部分に関連していくと思う。

〔鍋島委員〕

主要審議事項についてのところに重点施策と書いてあるが、ここが連携施策となって学区

体育協会との連携により活性化するなど、そのような形になると正に連携して具体的な施策にすることができると思う。

重点というよりも一体化するとか連携するとかで評価していただけるとスムーズに行くと思う。

〔東川会長〕

現在、事務局と一緒にイメージしているのは、基本方針はこのような方向で進めていきながら、重点施策のところで連携を取り「このようなことをしていきます」というような示し方ができないだろうかと思っている。このことについて皆さんから意見をいただきたい。

〔市民局長〕

この議論は、施策で言うとアウトプットの話の部分と、鍋島委員が言われたアウトカムの部分に分かれると思う。

「新しいスポーツ王国広島」の姿を見た時に、成果として広島の「新しいスポーツ王国」をどう目指すのかという時には少し工夫があるのでないかと思う。

例えば施策の組み換えであるとか、視点に沿ってここにあるような「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」という切り口で集めていくというような形になる。当面の中間年ではそういうものを目指して、その時にはこういう視点からこういう重点施策を作っていく。そのように重点施策を作っていくと王国の姿が見えてくるのだらうという感じがする。いきなりここで結論を出すのではなくて、施策などを検討しながらまた戻って検討していくといった議論の展開になるのではないかと思う。

〔東川会長〕

今局長が言われたように、部会でも「行きつ戻りつ」で検討を重ねているところである。

10月に策定された第5次広島市基本計画では、柱立てはこのような方向になっている。それを全く無視するわけでもない。振興計画としてこれでいいのかどうかについては議論の余地はあるがそれにこだわるわけではない。

【議事の(5)：推進施策について】

〔本谷委員〕

施策推進の方向性の資料の最後にあるサッカー専用スタジアムのことであるが、推進施策として「民間主体のサッカー専用スタジアムの整備の支援」とあって、推進の方向性として新規でこういった形で取り組むという意味だと思う。

「民間主体」という部分で、広島市の現状はよく理解しているが、「民間主体のサッカー専用スタジアム」という文言が、向こう10年間に渡って明文化されて出ていくということについては立場上よろしくない。「民間主体の」という部分をどこまで出すのかということになると思う。部会の意見はそうであろうかと思うが、「民間主体の」ということには違和感がある。この問題は民間がするのかどうかこの審議会で検討すべきなのかどうかということも含めて、この文言については再検討してほしい。

〔文化スポーツ部長〕

サッカースタジアムの件であるが、今回のスポーツ振興計画は、第5次の基本計画に沿っ

たものであり、広島市の施策としてサッカー専用スタジアムは民間主体で行っていただくということを基本に考えており、今回のスポーツ振興計画もそれに沿ったものである。

〔東川会長〕

この審議会が立ち上がった時には、スポーツ振興計画を検討していくに当たっては第5次基本計画に沿って考えていかななくてはならないということであったが、一方ではこのスポーツ振興審議会として計画をどう考えるかというスタンスで臨んでもよろしいという事務局との了解の中で検討してきたわけである。

今説明があったが、そういうことも踏まえながら審議会としてどのような表現がよいのかだと思う。例えば「民間主体の」という部分であるが、この計画の中では外しておいた方がよいのではないかという本谷委員の意見だったと思う。委員の皆さんに検討いただければと思う。

〔本谷委員〕

もう一つ付け加えれば、私が審議会の委員を務める中でこういった文言で外に出ていくことについては、サッカーの関係者も含めて逆に説明のしようがない。サンフレッチェとして、競技団体も含めてこれを認めているということになってしまうことが立場上怖い。

〔市民局長〕

サッカー専用スタジアムそのものの位置づけについて議論していただいているが、スポーツ振興計画は、基本的には第5次広島市基本計画の部門計画となっている。したがって、基本計画の中をより詳しくすることは問題ないが、それを外れてしまうと部門計画として好ましくないと考えている。

〔東川会長〕

それは捉えようだと思う。審議会がスタートした時には自由に発言するということであった。今市民局長が言ったとおり、現在第5次基本計画に基づいてすべて骨格が固まるということになると検討内容も違ってくると思う。

〔本川委員〕

この審議会で、民間主体のサッカー専用スタジアムという位置づけを決められるのかという疑問がある。民間で建設するということをここで決めて振興計画の中に織り込めるのかと思う。「サッカー専用スタジアムがほしい」という意見はあるとは思いますが、それをどのようにしていくのかということをこの場で決められるのか。これから検討していこうということであればいいと思うが、建設を民間がするのか、市がするのか、県がするのか、国がするのかということをここで決めるのは無理なのではないかと思う。

〔東川会長〕

計画と実際に広島市がその施策を実施していくということについては、ワンクッションが必要ではないかと思う。そうでないと審議会として何も出せないということになってしまう。このことは、最初の審議会の時に皆さんから意見をいただき、審議会としての計画を作ることによって理解している。したがって、「民間主体のサッカー専用スタジアム」という文言

については削除して、中身についてはもう少し検討の余地があるという形で柱としては残すことはできるのではないかと思います。

仮に今後この項目が一つの柱になるとするとどのように支援していくのかという文言を書いていかなければならないと思う。そうすれば広島市の第5次基本計画を否定することにはならないのではないかと思います。

〔本谷委員〕

広島市の考え方としては問題ないと思う。また広島市の立場も理解はできる。この審議会で承認された事項として外に出ることについては私は委員として反対をせざるを得ない。そもそも審議会の中で、サッカー専用スタジアムについて、民間でするのか行政がするのかということを検討する場なのかどうかと思う。審議会の一人の委員としてこのことが明文化されて審議会が了解した事項として10年間残っていくというのは立場上避けたい。

〔東川会長〕

今回の提案は、これまでの部会で検討して意見が出たものを事務局が集約したものである。

〔本谷委員〕

このことは、また部会の中で検討いただいてもいいと思う。

〔東川会長〕

今日のところは、そのような意見もいただいたので宿題として預らせてもらいたい。審議会としての方針も出てくるので、次の部会で検討させていただきたい。

〔本川委員〕

理念であるが、それぞれが連携し一体となった取組が必要であるということであるが、どのように連携して一体となっているのかが見えない。それを示さないと「新しいスポーツ王国広島」が見えてこない。施策の推進がどう絡んで一つのものになるのかという「核」が見えない気がする。「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」ということで「スポーツ王国広島」を目指していくということであると思うが、では今までの施策の何をどう連携させていくのかが理解できない。

例えば、地域スポーツクラブを各地域で進めていき、その中でいろいろなことを一体的に行い、またみんなが参加しやすいスポーツイベントを開催していくということをベースにすると、そこに指導者の問題も取り込んでいく。そこで一つの学区がモデル的に総合型地域スポーツクラブを行い、その中に取り込めるものは取り込んでいき「新しいスポーツ王国広島」にしていこうという何か見えるようなものがほしい。そうでないと「連携して新しいものを」ということが分かりにくい。そのことが地域においての「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」ということにつながっていくのだと思う。

〔播野委員〕

アンケートの結果を見ると、スポーツ関係の団体などに属していない市民も多い。その市民をどう取込むかそれが連携の重要課題ではないかと思う。市民の中には「ボランティアとして参加したい」、「スポーツ自体も楽しみたい」という方が多いと受け止めている。そうい

った人を取込むことが今後必要になってくるのではないかし、そのことがさらに見えるようになっていけばいいと思う。

〔東川会長〕

では、これまでの施策体系の中で重点施策を何にすれば「新しいスポーツ王国広島」が見えてくるのか、また、重点の作り方についてご意見をいただきたい。

〔播野委員〕

総合型地域スポーツクラブであるが、これまでも取り組んできているとは思いますが、その中に一般市民を取り込むことも考えられる。特に広報の方法が大切だと思う。

〔東川会長〕

4本の柱をいくつかの項目でくくるような形で、それを重点施策としてこれとこれに取り組んでいこうという出し方もあると思う。

ちなみに、平成17年の素案が出された時には、その時の重点施策というのは「効率的・効果的なスポーツ施設の運営」「総合型地域スポーツクラブの設立支援」「プロスポーツ、企業スポーツの応援機運の醸成と市民との交流支援」「ジュニア選手の育成強化」というそれぞれの項目の中に、例えば総合型地域スポーツクラブであれば学区体育協会との関係をどのようにするのか、また体育指導委員の活性化というものも盛り込んで重点施策の具体的なものが示されていた。

〔市民局長〕

重点施策についてというよりも、本日はじめて施策の説明を受けた方もおられますし、この場で重点施策はどうかと聞かれても意見を言えないと思うので、事務局としても重点施策などを整理させていただき、将来的な方向性に関する施策ごとの組合せも考えながら部会で審議していただくというのはどうか。

また、事務局まで気づきやご意見をいただければ効率的な作業ができるのでお願いしたい。

〔鍋島委員〕

本川委員の意見のとおり、個々の具体的な施策と一体化ということがつながっていないので何かつながるものがほしい。

例えばスポーツイベントであれば情報というものを一つの団体が担当するのではなく、様々なネットワークによる連携ができると思う。それと指導者の派遣についても一つの施策だけでなく、競技力向上でも必要であるし、生涯スポーツでも必要である。そういった意味での指導者のネットワークも大切である。

また、施設のこともあると思う。学校施設だけでなく、連携しながらお互いにつながりをもって一般の市民でも利用しやすいような環境をつくることも大切である。さらに、今課題になっている国際大会の支援についても国際大会をどのように広島に誘致するのかということについてもつながりが必要だと思う。このように、いろいろなことを一体化したものが「新しいスポーツ王国広島」になるのだと思う。情報、施設、指導者、国際大会支援などのネットワークができるようなものを項目に入れることができればいいと思う。

〔東川会長〕

人材をどうやって活用していくのか、総合型地域スポーツクラブのリーダーの問題もあれば、学校運動部への人材派遣の問題もある。重点施策の中でそうしたくくりもできると思う。

〔田川委員〕

今日はかなり重要な部分に差し掛かっていると思う。

整理してみると、縦軸に重点項目を置き、横軸に今のマンパワーの問題、情報提供の問題、エリアサービスの問題などを置くとそれぞれの事業において、これは地域スポーツであれ、国際大会であれ、障害者スポーツであれ、「仲間づくりの視点から見たもの」であるとか、あるいはここは「施設に関わるもの」、「情報提供に関わるもの」など、縦軸と横軸の関係で整理してみると分かりやすいのではないかなと思う。

例えば地域スポーツ振興担当コーディネーターという言葉がいろいろなところに出ているが、この地域スポーツ振興担当コーディネーターは地域のものであったり、トップアスリートのものであったりすると、地域スポーツ振興担当コーディネーターというマンパワーが必要ではないかという整理ができると思う。

〔東川会長〕

これまで皆さんから良いヒントもいただいたと思う。いただいた意見を参考にして次の部会で方向性が出せるように整理してみたい。

【閉会】

〔東川会長〕

以上で、本日の審議会は閉会とさせていただきます。